

■土門拳 写真家。冷徹なリアリズムで、ベストセラー「筑豊の子どもたち」やライフワーク「古寺巡礼」ほか傑作多数。

どもんけん

伊藤博文暗殺1909＝ 山形県酒田町の母の実家で生まれた。

明治天皇没・1912＝ 3歳：

民本主義・・1916＝ 7歳：生活の打開を図るため先に発った両親のいる東京に移り、谷中の長屋に住む。

本格政党内閣1918＝ 9歳：横浜に移住。

原敬首相暗殺1921＝12歳：

関東大震災・1923＝14歳：神奈川県立横浜第二中学校に入学。画家を希望していたが、はじめ成績優秀であったが、写生・読書にふけり、落第寸前になった。

円本時代始・1926＝17歳：父の女性問題で、母と家を出る。考古学に熱中。

金融恐慌・・1927＝18歳：

共産党事件・1928＝19歳：中学校を卒業。願愷之の絵を見て才能に限界を感じ、画家を断念。

従兄や伯父の家に寄宿し、通信省の倉庫係、常盤津の内弟子、弁護士の書生などをした後、

満州事変・・1931＝22歳：

五一五事件・1932＝23歳：農民組合の書記見習として農民運動に参加するが、検挙され挫折。自殺を考えるほど悩む。

国際連盟脱退1933＝24歳：母の勧めで宮内写真館の入門するが、報道写真等の存在を知り、営業写真に疑問を持つ。伯父から借りたカメラでスナップの練習。父が死去、8年ぶりに死顔と対面。

芥川直木賞始1935＝26歳：{アサヒカメラ}にスナップ写真が入選、名取洋之助の主宰する{日本工房}の求人を知り、面接を受けて合格。師匠の宮内が許さなかったため、夜逃げ同然に写真館を出る。

二二六事件・1936＝27歳：

日中戦争始・1937＝28歳：

報道写真の技術と精神を身につけ、

健保+総動員 1938＝29歳：字垣一成の写真を{ライフ}に土門名で配信、そのため名取と対立し、

第二次大戦始1939＝30歳：同工房を退社、国際文化振興会の嘱託写真家となる。会のタイピストと結婚。初めて室生寺を訪れる。

大政翼賛会・1940＝31歳：柳宗悦の日本民芸協会主催の沖縄観光団に参加して、取材。

日米開戦・・1941＝32歳：初めて文楽を撮影、貴重な記録になるとともに、古寺と並んでライフワークとなる。

・・・・・1942＝33歳：中国で満州・北京を撮影。{写真文化}に掲載された、画家、作家等のポートレートによって、

創価学会検挙1943＝34歳：*第1回アルス写真文化賞。このとき高村光太郎は、土門の写真について“土門拳の写真はぶきみである。土門拳のレンズは人や物を底まであばく”と評している。{日本評論}に論文を発表し、同誌が発禁となる。

敗戦・・・・1945＝36歳：召集を受けるが、持病により即日除隊。敗戦後、生活に窮し、進駐軍相手の商売をする。

新憲法公布・1946＝37歳：次女が用水に落ち死亡。{東京}{女性}などに写真を発表。

極東裁判決・1948＝39歳：「肉体に関する八章」。『風貌』シリーズを企画、横一面に撮影したい人物の名を書く。

朝鮮戦争始・1950＝41歳：「皮膚に関する八章」。{カメラ}の月例写真審査員になり、カメラとモティーフの直結、絶対非演出の絶対スナップを標榜するリアリズム写真運動を主唱し、アマチュア写真家たちと交流を深める。

独立回復・・1951＝42歳：「今日を生きる」。{フォト・アート}に掲載のヌード写真がワイセツとして発禁となる。

TV放送始・・1953＝44歳：初の写真集「風貌」(戦前アルス写真文化賞を受けた写真を収録)。“江東の子どもたち”を熱心に撮影。

自衛隊発足・1954＝45歳：講演で第1期リアリズム写真の終焉を宣言。「室生寺」で、

55年体制始・1955＝46歳：*毎日出版文化賞。日本橋高島屋で初の個展開催。日本写真協会功労賞。

国連加盟・・1956＝47歳：「土門拳自選集」としてメーデー、内灘、砂川闘争などに取材した写真を発表。

なべ底不況・1957＝48歳：(週刊新潮)の取材で初めて広島へ行き、撮影を重ねて、

インサントマン・1958＝49歳：「ヒロシマ」を刊行、毎日写真賞、写真批評家協会作家賞。

美智子妃・・1959＝50歳：筑豊炭田を取材、帰京後、脳出血で倒れ、静養。

安保闘争・・1960＝51歳：*「筑豊のこどもたち」を刊行、ベストセラーとなり、芸術選奨、東ベルリン国際報道写真展金賞、日本ジャーナリスト会議賞などを受賞、映画化も決定。脳出血の後遺症でスナップが困難となり、大型カメラにより、

「古寺巡礼」シリーズの完成をめざす。「るみえちゃんはお父さんが死んだー続・筑豊のこどもたち」で、

タイタイ病始・1961＝52歳：毎日芸術賞。

全国総合計画1962＝53歳：美濃での取材をきっかけに古陶磁に惹かれ、以後熱心に撮影。

TV宇宙中継始1963＝54歳：ライフワーク「古寺巡礼」シリーズの第1集を刊行。

大学紛争始・1965＝56歳：「信楽大壺」、

いざなぎ景気1966＝57歳：体にザイルを縛って、鳥取三仏寺の投入堂内陣を撮影。

震ヶ関バトル・1968＝59歳：広島を再訪し、写真展で発表。2度めの脳出血で倒れ、入院。

全共闘バトル・1969＝60歳：母が死去。リハビリに取り組む。

ドルショック・・1971＝62歳：「薬師寺」。「古寺巡礼」で菊池寛賞。

日中国交回復1972＝63歳：「文楽」を刊行、戦前戦中の写真が陽の目を見る。

石油ショック1973＝64歳：「東大寺」。紫綬褒章。

角栄金脈辞任1974＝65歳：酒田市名誉市民第一号。車椅子で古寺の撮影を開始し、

クランポール事件1975＝66歳：「古寺巡礼」シリーズを成就。これに代表される仏像、寺院等の記録写真は、彼の日本の伝統文化に対する独自の解釈と、対象を凝視するレンズの非情な記録性が結びついた、稀有な作品群となっている。

田中角栄逮捕1976＝67歳：「写真作法」出版。

成田衝突・・1978＝69歳：「写真批評」出版。「女人高野室生寺」、

革新大敗北・1979＝70歳：「写真随筆」出版。*朝日賞。福井の永平寺などの撮影が最後の旅行となる。脳出血で倒れ、意識を失う。

・・・・・1981＝72歳：毎日新聞社が土門拳賞を創設。

中曽根内閣・1982＝73歳：

ドイツ元帥・1983＝74歳：「土門拳全集」刊行開始。生地酒田に日本の写真家としては初の個人美術館“土門拳記念館”が開設された。

ドイツ統一・・1990＝81歳：意識が戻らないまま、没した。

岩波「日本の写真家16」、「この人どんな人」、平凡社百科事典、「目でみる日本人物百科」、